

令和3年度事業計画書

公益社団法人 劇場演出空間技術協会

令和3年度の事業活動は、令和2年度に新たに選任した役員による組織体制にて事業活動を定着させる年度となる。急激な国際社会の変動を確実に捉え、新しい潮流を敏速に取得し本会の公益事業に反映する。併せて、不特定多数の国民のために、定款第4条に掲げる公益社団法人としての事業活動を余すところなく実行する。

本会の会員が、JATETの存在意義と会員である事を実感し、誇負できる公益活動を活発に行うとともに、本会の活動を積極的に全国に向けて訴求する体制を強化する。

令和3年度に実施する具体的な事業計画は次の通りとする。

1. 会議

1) 総会

令和3年5月26日(水)公益社団法人劇場演出空間技術協会 会議室に於いて、昨年度と同様新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から書面総会を開催予定。

協会の最高機関として、定款第52条(事業報告及び収支決算)に則り令和2年度事業報告、収支決算報告に関する承認決議を行う。また、第51条(事業計画及び収支予算)に則り令和3年度事業計画、収支予算書の報告を行う。

2) 理事会

定例理事会を年4回開催し、協会運営に関する重要事項を審議し、業務の執行を決議する。

2. 委員会

1) 事業執行連絡委員会

定款第58条(委員会)に則り、理事会の諮問機関として、執行理事及び部会長で構成される事業執行連絡委員会を毎月1回、年12回開催する。年間事業計画に基づき理事会で承認した事業を執行し、理事会と部会の緊密な連絡を諮る。

3. JATET部会計画

令和3年度における所属各部会の主たる事業計画は次の通りである。

1) 教育研修部会

劇場、文化施設の繁栄に努め、公益社団法人として社会貢献できるように取り組む。

[事業計画]

(1) 部会を原則月1回開催し、新設、改修された劇場、施設の情報を収集する。

(2) 新設、改修された劇場、施設に対し、施設見学会を年3回を目標に開催する。

見学会を開催することで、施設建設の工夫などみどころを建設に関わった方たちから聞き、施設の関心を高めることにこれからの施設建設の向上に貢献する。

〈見学会候補施設〉

山形県総合文化芸術館

2020年3月にJR山形駅西口に開館した劇場。

東北地方屈指の収容人数を誇る2,001席の大ホールを中心にスタジオ、練習室・会議室、ショップ・カフェを併設した文化芸術拠点。

館内には、山形県が世界に誇る技術と伝統の技がふんだんに用いられ、空間全体から山形の魅力を感じとることができる施設である。

柳川市民文化会館

2020年12月に開館した劇場。

市民会館に代わる市内の新たな文化芸術及び交流拠点としてメインホール(803席)とイベントホール(約200席)を併設する施設。

高崎芸術劇場

高崎芸術劇場は、1961年に建設された群馬音楽センターの歴史と精神を継承・進化させ、新しい高崎の都市文化を創造・発信する劇場として、2019年秋、JR高崎駅東口に開館した。

古今東西のさまざまな音楽や舞台芸術の公演に対応した2,030席の大劇場。ロックコンサートや演劇・舞踊・能などの多様なパフォーマンスが可能なスタジオシアター。群馬県初の413席の本格的音楽専用ホール。リハーサルやレッスンのための9つのスタジオなど「鑑賞と創造」が一体化した複合的な芸術劇場である。

(3) 見学会が開催された劇場、施設をJATETジャーナルで紹介し、最新の劇場技術、リニューアルの実例等を全国に無料にて提供をする。

(4) スタジオ、仮設劇場、制作場など劇場以外の新たな見学先を模索する。建築・設備の見学だけでなく、一般には公開されない施設を見学することで、設計事務所やゼネコンの方たちの新たな設計、施工への発想を促し、新しい劇場、演出空間の建設に役立てる。

2) 建築部会

部会を原則月1回開催し、次に掲げる調査研究を実施する。

(1) 大きな災害が劇場・ホールの計画に影響を与えていることは事実。

これまでの大災害の後にどのような影響を受けたかにスポットを当てて調査検討する。

(2) 2021年は東日本大震災後10周年ということもある。ただし、災害対策だけで受動的な取組みのみを発信することがないよう配慮する必要がある。今後の劇場・ホールにとって前向きな内容になるよう、具体的な活動内容を今後さらに協議していく。

(3) JATET 誌 90 号編集

JATET 誌 90 号において編集を担当する。

3) 機構部会

部会を月1回開催し、以下の活動を行う（3月、8月を除く）。必要により研究会を行う。

(1) JATET 誌 89 号編集

JATET 誌 89 号において編集を担当する。

(2) 吊物機構安全指針の見直しを行う。

(3) 吊物装置における各駆動方式等の調査・研究、

未来の駆動部について調査・研究を行う。

(4) その他の事業において機構分野の分担・協力をする。

4) 照明部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

(1) 舞台照明において、ネットワークを使用した調光等のコントロールが多くなっている。これまで、ネットワークを使用した場合の資料があまり作成されてこなかった。現在ほとんどの新設の施設はネットワークを使用している。改めて舞台照明でのネットワークとDMX-512に関する資料を作成して公開する。

(2) JATET-L-7190 の改正作業を行う。複数年度になる可能性があるが、規格の内容が現状に合わなくなっている部分も有るので見直しが必要である。ワーキンググループを作り作業を進める。

(3) 照明器具の明るさや、照射エリアについての考え方の統一とともに、フィールド角やビーム角などの特殊な用語について定義を行い、ユーザーが照明器具を選択するときの情報をわかりやすく統一できるよう検討を進める。

(4) 劇場演出照明は、LED機材が増加し運用管理や設備設計の考え方が多様化しており、設備の安全確保と効率的運営の普及を目指した提言が求められている。施設管理者と施設利用者が抱える困りごとの対策を研究し、舞台芸術の振興と科学技術の発展に寄与することが必要な時期であると考え、下記の項目について調査をおこなう。そのために研究会、またワーキンググループを立ち上げる。

・新築/改修施設の調査報告

・施設利用時における常設機材と持込機材の運用調査

・施設利用時における純直電源とネットワークの運用調査

上記の調査はアンケートではなく、特定の劇場・ホールをピックアップして運用内容を聞き取り調査する。

5) 音響部会

音響設備に関する最新かつ有用な情報を幅広く収集し、JATET規格として取り纏める。また、その内容をJATET誌、JATET技術展などにおいて発表する。

- (1) 電源電圧の違いによるパワーアンプ出力信号への影響についての調査研究
パワーアンプを100V、200V駆動した時の出力信号を計測しその特性を評価する。
また、上記に加えスピーカからの拡声音について試聴により評価する。
- (2) 音響電源200V使用時に安全に運用できるコネクタについての調査研究
安全性、汎用性の高い電源コネクタを調査・選定し、劇場等演出空間用標準コネクタとして推奨していく。
- (3) 劇場等演出空間用音響設備の劣化診断・適正更新時期判定に関する調査研究
音響設備の劣化診断を実施するためのチェックリストを作成し、その結果をもとに適正な更新時期が判定できる基準を策定する。
- (4) 舞台連絡設備指針改定に向けた調査研究
アンケート調査結果及びJATETフォーラム2020/21セミナー・インタビュー等を踏まえ舞台連絡設備指針改定作業を実施する。
- (5) グラウンド（接地）およびインバーターに関連するノイズ対策についての調査研究
伝送におけるノイズ障害のメカニズムを明らかにし、保安とEMCのために必要な技術的知見を集積する。

6) 映像部会

リアルまたはオンラインでの部会及び研究会を、月1回程度を目標に開催し、関連情報の収集および会員への情報発信、他部門との相互連携を目標として活動する。
以下の研究テーマを中心に最新動向の研究調査および部内研究会等を実施する。

「令和3年度の研究会テーマ」

今年度は、With/Afterコロナの時代を捉えて、次に来るものに向けたビジョンを議論すると共に、ネットワーク技術の動向を調査研究し、劇場や演出空間の役割の重要性を捉えなおし、新しいプラットフォームの構築を目指した取り組みを進める。その成果を今後開催されるJATETフォーラム等で発表することを目指す。

- (1) デジタル・トランスフォーメーションに対する劇場・演出空間の今後の取り組みや、「劇場設備のIP化」により、劇場と外部空間を結ぶプラットフォームとして求められる機能等について調査研究。
外部講師として、劇場・演出空間におけるデジタル・トランスフォーメーションに関する専門家の招聘を予定する。
- (2) オリンピックでのネットワーク技術の活用事例について、外部講師による研究会を開催。
これらの研究会により、最新情報の取得および取り組むべき課題を議論、映像部会から広く情報発信を目指す。外部講師として、オリンピック放送の実施に関わったIPネットワーク技術の専門家を予定する。

7) 広報部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

- (1) JATETとその活動についての情報発信を図る。
JATETの持つ多くの劇場演出空間についての情報や人的資源を、広く社会のために資するための広報活動を展開し、社会のニーズを調査し、JATETとその活動範囲の拡大と活性化を図る。
必要に応じてJATETリーフレットの改訂、英語版の作成を検討し、JATET安全手帳の普及等へ協力する。
- (2) JATET全体での事業について、広報分野を担当し協力する。
JATETの重要な広報媒体であるJATET誌の編集に際して、その内容がより読みやすく且つ魅力的なものであるよう、編集担当部会に協力を行う。また、JATET主催行事の運営に協力する。

4. JATET フォーラム

令和2年度（2020年度）はJATET創立30周年の記念すべき年度となり、JATETの30年に亘る活動を踏ま

え、2020年12月16日（仕込み）、17日、18日（本番）に渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールでJATET フォーラム2020/21としてセミナーを開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響のため、劇場でのセミナーを断念し、セミナープログラムを番組コンテンツとして制作し、インターネット配信によるセミナーを開催することとした。コロナ禍での緊急事態宣言などの影響もあり、一部のセミナーコンテンツが令和3年度に入ってから制作となり、2年越しの事業として配信は5月以降を予定している。劇場演出空間で使用される舞台機材の最新技術と、劇場演出空間全域での安全にかかわる最新の研究を紹介し、広く全国に普及させる事を目的とする。

5. 国際交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、OISTAT（劇場芸術国際組織）日本センター及び韓国産業技術試験院（KTL）との交流、連携をより一層強化する。世界的なコロナ禍の影響を受けている中ではあるが、各国の状況を注視しながら、一昨年度に設立されたアジア5機関（韓国・中国・台湾・シンガポール・日本）による“Asia Entertainment Safety Alliance, AESA”「アジア・エンターテインメント・安全協議会」への参画を通じて、アジア諸国との交流を推進していく。

6. 国内交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、劇場演出空間施設とこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する関連機関・団体等との交流を促進する。

7. 発刊物

1) 機関誌JATET

機関誌JATETを年1回程度発行し、JATETが創立以来行ってきた事業や研究成果を広く社会に訴求する。また、各部会で研究、調査している最新技術や最新情報を広く社会に紹介する。

2) JATETジャーナル

JATETジャーナルは教育研修部会が実施する劇場施設見学会と連動し、ホームページ上で公開している。最新の劇場演出空間及びリニューアルされた劇場演出空間を広く全国に紹介する。

3) JATETニュース

JATETニュースは、最新のJATET情報や関連団体の活動を速報として、毎月1回を基本にメールマガジンとして発行する。

4) JATET リーフレット

公益法人としてのJATETの設立意義とその活動について広く社会に周知し、より多くの会員を獲得するため広報部会が作成したリーフレットを普及させる。現行の紙ベースのリーフレットはデータ化し、協会のホームページ上での公開を行うとともに、リーフレット英語版の作成を検討する。

以上